

科目名		理学療法評価学実習Ⅱ		授業の種類	実習	講師名		
授業回数	23回	時間数	45時間 (1単位)	配当学年・時期	理学療法士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
・ 臨床評価実習Ⅱに必要な知識、技術および思考能力を身につける。								
・ ボトムアップおよびトップダウン形式による障害増の把握が出来るようになる。								
〔授業全体の内容の概要〕								
・ 実習室にて行う。								
・ アクティブラーニングを用いてグループワークを中心に、疾患概要から評価項目の列举とその根拠を検討し発表する。								
・ 学生同士がペアとなり、実際の理学療法場面を想定しながら検査測定手技を強化する。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
・ 目の前の患者様に対し、検査測定をスムーズに行えるようになる。								
・ 動作分析から問題点に関する仮説が想起できるようになる。								
回数	講義内容							
1	概論・評価総論①							
2	評価総論②							
3	整形外科疾患の機能障害を呈する症例の、問題点に関する仮説を想起							
4	疾患による評価項目・実習							
5	疾患による評価項目・実習							
6	疾患による評価項目・実習							
7	疾患による評価項目・実習							
8	疾患による評価項目・実習							
9	疾患による評価項目・実習							
10	脳血管疾患の機能障害を呈する症例の、問題点に関する仮説を想起							
11	疾患による評価項目・実習							
12	疾患による評価項目・実習							
13	疾患による評価項目・実習							
14	疾患による評価項目・実習							
15	疾患による評価項目・実習							
16	疾患による評価項目・実習							
17	脊椎疾患の機能障害を呈する症例の、問題点に関する仮説を想起							
18	疾患による評価項目・実習							
19	疾患による評価項目・実習							
20	疾患による評価項目・実習							
21	疾患による評価項目・実習							
22	疾患による評価項目・実習							
23	疾患による評価項目・実習							

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
新・徒手筋力検査法 第10版	Helen J. Hislop他	協同医書
Crosslink理学療法学テキスト 理学療法評価学		メディカルビュー

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

グループワークの発表および試験によって判定する
